

機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会
(第 26 期・第 3 回)
議事要旨

日 時 令和 7 年 2 月 4 日 (火) 17:00~19:00

会 場 遠隔会議 (主催会場: 委員長 東北大学田中真美教授室)

出席者:

田中 真美、浅間 一、荒井 幸代、新井 史人、井村 順一、岩崎 誠、榎木 哲夫、高橋 桂子、
坂東 麻衣、藤崎 泰正、藤本 博志、水野 毅、石井 秀明、廣野 陽子

欠席: 藤森真一郎

配布資料

第 26 期第 1 回 IFAC 分科会議事次第

資料 1 第 26 期第 1 回分科会議事要旨

資料 2-1 IFAC 加入国際学術団体に関する調査票

資料 2-2 概要資料 (IFAC) 2024

資料 3-1 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期) 委員名簿 (令和 6 年 10 月 1 日現在)

資料 3-2 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期) 設置提案書

資料 4-1 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期・第 1 回) 議事要旨

資料 4-2 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期・第 2 回) 議事要旨

資料 5 自動制御協議会について

資料 6 The 8th IFAC Symposium on Nonlinear Model Predictive Control in Kyoto (NMPC 2024) の報告

資料 7-1 A list of candidates for IFAC offices for the term of office 2026-2029

資料 7-2 2025 IFAC Council- and Related Meetings

資料 7-3 IFAC co-sponsorship “light” for NMOs: IFAC^x

資料 7-4 INVOICE No 2025 - 28 for IFAC NMO annual subscription fee for 2025

資料 7-5 Call for President Candidates letter NMOs

議事 (議事進行はすべて田中真美委員長が担当)

1 資料 1 に基づき、第 26 期第 1 回の分科会議事要旨の確認が行われた。なお、本会は第 3 回目で、第 2 回目は自動制御の多分野応用小委員会への浅間委員を追加するメール審議であったことが田中委員長より補足説明がなされた。

2 連携会員 (特任) として石井秀明先生の自己紹介が行われた。

3 資料 2-1、資料 2-2 に基づいて日本学術会議加入国際学術団体に関する調査票の作成と日本学術会議に提出されたことについて、田中委員長より報告された。浅間委員から、有本建男氏 (日本経済新聞)

「学術会議は国際連携を強化せよ」という資料も共有され、日本学術会議への本調査票の提出の経緯とともに重要性について補足説明があった。特に、本調査は3年ごとに提出する必要があるため IFAC 本部での日本人の活動状況等、多くの情報が必要であることを確認し情報共有と管理について、自動制御協議会に協力いただきながら行うことが提案され、承認された。

4 第1回の会議で提案された第26期 自動制御の多分野応用小委員会の設置について、資料3-1、資料3-2を用いて藤崎委員から説明がされた。

5 資料4-1、資料4-2に基づき第26期 自動制御の多分野応用小委員会の活動について藤崎委員から説明がなされた。5月はオンラインで、11月は自動制御連合講演会の会場にてハイブリッド形式で、小委員会が開催されたことが報告された。

6 自動制御連合講演会の準備状況について藤崎委員から説明があった。今年も IFAC 本部に IFAC^xのロゴ使用を申請し、承認されていることも説明があった。2025年度は機械学会が幹事学会となり名古屋大学で行われ、2026年度は SCIE が幹事学会となり関東地区で行われる予定である事が報告された。

7. 資料5に基づき石井委員から自動制御協議会の経緯や現在の活動状況について、報告がされた。資料の中に説明が抜けた部分として、今年度も自動制御講演会で特別企画が行われたことや、Girls in Control について補足説明された。また、3月に大阪工業大学で行われる Girls in Control について、是非皆さんに周知いただきたいとのご紹介があった。

8. 資料6に基づき、榎木副委員長より日本で開催した IFAC 会議 The 8th IFAC Symposium on Nonlinear Model Predictive Control in Kyoto (NMPC 2024)の報告があった。コロナのため1年遅れたが盛会であった旨が報告された。

9. IFAC 本部からの通知について

IFAC NMO Representative の榎木副委員長に対して送られてきている通知について資料7-1~7-5に沿って榎木副委員長により説明がされ、その後審議等を行った。

—資料7-1に関しては、締め切りが2月21日であり榎木先生から関係部署に連絡を入れているが、現時点では決まっていないことが報告された。浅間委員から、これに関して IFAC 本部について詳細説明があり、日本としての今後の展開も考えて、是非多くの方に委員に推薦して入っていただきたい旨が説明された。以前 IFAC World Congress2023 の開催のために作製多リストや榎木副委員長から IFAC 本部に連絡をして委員のリストをもらい候補者について検討することが承認された。また、自動制御協議会の理事会などでも議論していただきながら、できれば多くの方を推薦したいということが承認された。

—資料7-2に関して、同時期に IFAC Robotics や IFAC Mechatronics もパリ行われることが浅間委員長から説明がされ、参加可能な人がいたら参加してほしい旨説明があった。浅間委員は行かれること、藤本

委員は行かれるかもしれないが IEEE Mechatronics の中国での会議とも重なっており現時点で検討中であることが報告された。

－7－3 IFAC^xについての説明がなされ、自動制御連合講演会が IFAC^x_{JAPAN} として行われたことが報告された。

－7－4 日本学術会議へ IFAC の会費について説明がなされた。日本学術会議での対応となるが、例年通りの対応となっている旨が榎本副委員長や浅間委員から説明があった。

－資料 7－5 の President の候補者の推薦についてどのようにするか議論を行った。特に 2 期以上 TC で活躍されている方は候補となりうるのではないかと浅間委員から説明があり、そのような方たちを資料 7－1 での議論したリストをチェックするとともに可能かどうか打診を行いながら検討することとした。ただし、President 候補については本人の都合も鑑み、難しい場合は出さない可能性もある旨も承認した。

10. その他

榎本副委員長より、IFAC 分科会では、自動制御を含め科学技術はとはどうあるべきかなどを議論し意思の表出に関する活動を行うことの提案がなされた。浅間委員より日本学術会議の意思の表出や提言に対する補足説明や、関連研究として防衛大学の辻田先生が行っているセキュリティロボティクス研究会などが紹介された。また、新井委員が委員長として進めているロボット学分科会の提言の発出のための活動内容や今後の予定が紹介され、ご一緒できる機会があればご一緒に活動することが承認された。